

子ども ワークショップ

- CAP就学前プログラム
- CAP小学生プログラム
- 中学生暴力防止プログラム

- ロールプレイと話し合い
- トークタイム(復習と相談)

子どもを対象にしたプログラムでは

年齢に応じた寸劇(ロールプレイ)、歌、人形劇、討論などを盛り込み子どもたちが怖い思いをしないで暴力防止の具体的な対処法を学べるよう配慮がされています。「～してはいけない」ではなく「～することができるよ」と身を守るための行動の選択肢を広げ、練習します。子どもたちには誰にでも安心・自信・自由の権利があることをくり返し伝えることで、すべての子供たちが本来持っている「生きる力」を引き出します。

トークタイム

ロールプレイの後にトークタイム(復習と相談)の時間を持ちます。CAPで習ったことがより深く理解でき、いじめや虐待などの暴力の再発防止につながっています。

おとな ワークショップ

- 教職員ワークショップ
- 保護者ワークショップ
- 一般の方向けのワークショップ

大人ワークショップでは

子どもを孤立させないため、子どもを援助するために何ができるかを考えます。子どもの人権を尊重し、暴力や虐待について正しい知識を持つことはとても大切です。子どもの話をどのように聴いたらいいのかなど具体的にエンパワメントの方法を学びます。

子どもワークショップの実施にあたって、事前に教職員ワークショップと保護者ワークショップを実施します。ワークショップを受けた子どもたちがおとなに伝えたいと思うことをしっかりと受け止めるためにぜひCAPプログラムの内容を知っておいてください。

CAPのと

「CAPのと」は能登の子どもたちにもCAPプログラムをぜひ受けさせたいと考えたメンバーが養成講座を受講しCAPスペシャリストの資格を得て平成18年4月に発足しました。仲間を増やし能登全域の子どもたちに安心自信自由の権利を伝え、自分自身を大切する心、そして相手も大切と思う心をもって強く生きられるようにCAPの活動を続けていきたいと考えています。

会員募集

CAPのとでは一緒にCAPプログラムを広げる活動をする仲間とCAPを応援してくださる方々を求めています。

会員(一緒に活動して下さるみなさん)

年会費 1,000円

賛助会員(活動を応援して下さるみなさん)

年会費 一口500円 何口でも

CAPのと



じしん



あんしん



じゅう

CAPは
子どもたちが
安心して
自由をもって
自由に生きるための
心を育てる
学習プログラムです

CAPとは

CAPは Child Assault Prevention (子どもへの暴力防止) の略です。

子どもが、いじめ、虐待、誘拐、性暴力などのさまざまな暴力に対して自分に何ができるかを伝える学習プログラムです。

ロールプレイや話し合いをしながら大切な3つの権利「安心」「自信」「自由」について学び自分を守る力を身につけます。

従来の「～してはいけません」ではなく子どもたちに暴力に対して具体的にどう対応するかを教えます。

自分自身を守るためには

「自分を大切に思う心＝人権意識」が必要です。誰にも「安心」「自信」「自由」の権利があることを伝え、子どもたちが本来持っている「生きる力」を信じ、肯定し、引き出すプログラムです。

CAPの歴史

1978年：アメリカ・オハイオ州コロンバス市のレイブ
救援センターで誕生

1985年：森田ゆりさんにより日本に紹介される。

1995年：CAPスペシャリスト養成のための講座が開催

1998年：CAPセンターJAPAN設立

2009年：J-CAPTA(JAPAN CAP Training&Action)設立

現在、世界11カ国で実施され、日本では全国で130以上のグループが活動

CAPプログラムの著作権はICAP International Center for Assault Prevention にあります。許可なく子どもワークショップを模倣・実施することはできません。

CAP小学生プログラムの ロールプレイ

1.いじめ



「NO!」いやと言っているよ。一人で言えないときは友達と一緒に言おう。友達が困っているときは助けてあげよう。

2.誘拐



「GO!」怖いことイヤなことからは逃げていいよ。その場を離れていいよ。特別な叫び声も使えるね。

3.いやな触られ方



「TELL!」信頼できる人に相談しよう。信じてくれる人が現れるまであきらめないで。

子どもの権利 安心・自信・自由

「自分を大切に思う気持ち」自分は大切な存在だから「何としても自分を守ろう」と思う気持ち
安心・自信・自由は子どもが生きていくためになくてはならない人権です

エンパワメント

CAPでは、子どもを守られるべき弱い存在とは考えません。
子どもが本来持っている力を信じ、肯定し、その力が十分発揮できるように働きかけることをいいます

私たちおとなにできること

子どもが、いやなことやこわい目にあったことを話してくれたときには、しっかりと受け止めてじっくり聴いてください
「話してくれてありがとう」
「あなたのいうことを信じるよ」
「あなたが悪いんじゃないよ」

そして自分を守るために何ができるか子どもと一緒に考えましょう。
信じてくれる人がいることは、傷ついた子どもにとってとても重要なことなのです。

CAPのと